

2024年
令和6年12月26日発行

冬号

北海道観光レポート

Hokkaido Tourism Organization



網走市 流水観光砕氷船おーろら



函館市 はこたてクリスマスファンタジー



札幌市 さっぽろ雪まつり



利尻富士町 利尻山

- 北海道の延べ宿泊者数は9月に全体で2,000万泊超え、外国人も過去最速ペースで400万泊超えとなった。
- 8～10月の来道者数は全ての月で前年同月実績を上回り、好調を維持

トピックス

世界最大級の旅の祭典『ツーリズムEXPOジャパン2024』に出展
北海道ブースは準グランプリを受賞!!

令和5年度道内観光産業による経済効果について

HOKKAIDO LOVE!



北海道の延べ宿泊者数実績

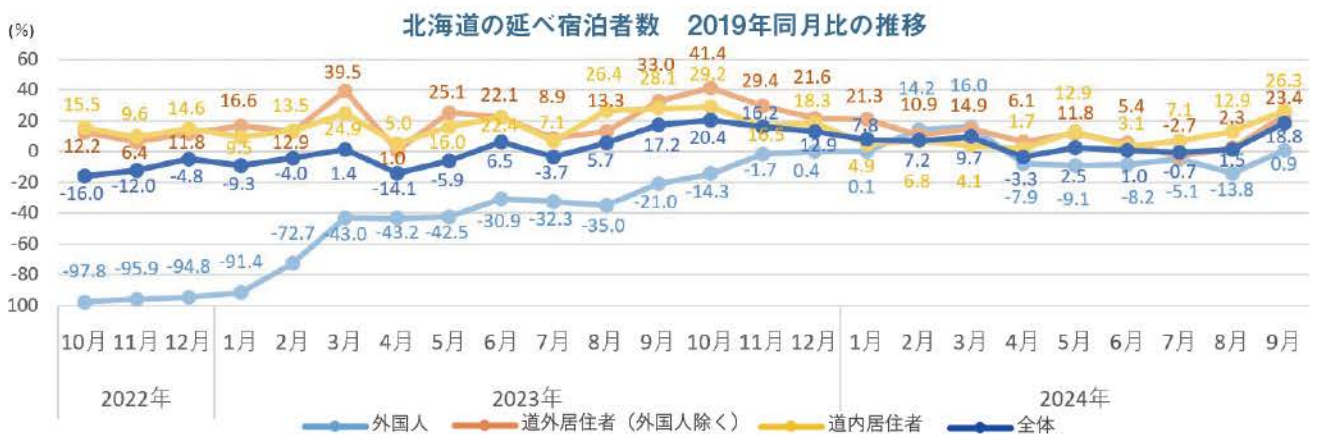
2024年7-9月

- 北海道の延べ宿泊者数(全体)は、7月は445万人泊(前年同月比+1.7%、2019年同月比+22.4%)、8月は471万人泊(前年同月比+3.4%、2019年同月比+20.2%)、9月は406万人泊(前年同月比+10.9%、2019年同月比+25.1%)であった。
- 北海道の日本人延べ宿泊者数は、7月は351万人泊(前年同月比▲3.1%、2019年同月比+27.4%)、8月は386万人泊(前年同月比▲1.5%、2019年同月比+18.0%)、9月は343万人泊(前年同月比+6.1%、2019年同月比+21.7%)であった。
- 北海道の外国人延べ宿泊者数は、7月は94万人泊(前年同月比+24.4%、2019年同月比+6.5%)、8月は85万人泊(前年同月比+33.6%、2019年同月比+31.3%)、9月は63万人泊(前年同月比+46.9%、2019年同月比+47.4%)であった。
- 昨年対比では、日本人延べ宿泊者数が7月と8月で減少したものの、外国人延べ宿泊者数が各月で大きく増加したことにより、全体で各月昨年を上回った。2019年対比では、外国人延べ宿泊者数が全国、北海道ともに大きく上回り、北海道の全体においては、7月から3か月連続で20%を超え、好調をキープしている。
- なお、2024年4-9月の北海道全体の延べ宿泊者数は、コロナ禍前の2019年同期比+15.7%の2,235万人泊となり、昨年に続いて9月に2,000万人泊を超え、外国人延べ宿泊者数においても、2019年同期比+9.8%の404万人泊となり、過去最速ペースで9月に400万人泊を超えた。
- 市場別の延べ宿泊者数は、4-9月の合計で韓国が97.9万人泊と最も多く、次いで台湾87.1万人泊、中国39.8万人泊、香港27.5万人泊、シンガポール15.9万人泊、米国14.8万人泊、タイ10.6万人泊となった。

延べ宿泊者数データ(2024年7-9月第2次速報)

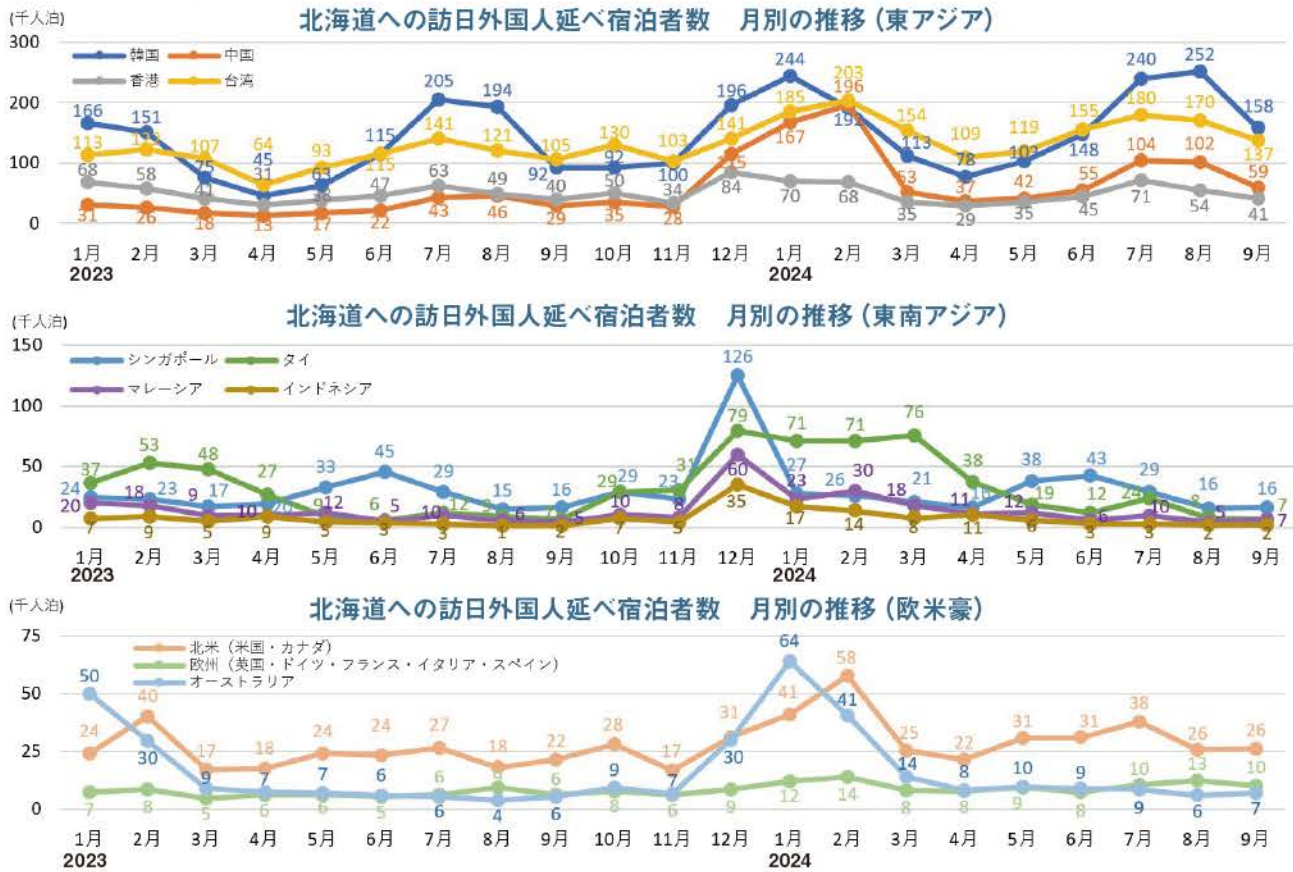
(単位:万人泊)

	2024.7			2024.8			2024.9			
	延べ宿泊者数	前年同月比	2019年同月比	延べ宿泊者数	前年同月比	2019年同月比	延べ宿泊者数	前年同月比	2019年同月比	
北海道	全体	445	+1.7%	+22.4%	471	+3.4%	+20.2%	406	+10.9%	+25.1%
	日本人	351	▲3.1%	+27.4%	386	▲1.5%	+18.0%	343	+6.1%	+21.7%
	外国人	94	+24.4%	+6.5%	85	+33.6%	+31.3%	63	+46.9%	+47.4%
全国	全体	5,666	+4.1%	+9.4%	6,498	+1.0%	+2.8%	5,371	+2.9%	+10.1%
	日本人	4,196	▲3.3%	+2.4%	5,174	▲3.7%	▲3.7%	4,133	▲1.8%	+2.0%
	外国人	1,470	+33.0%	+36.1%	1,324	+24.9%	+39.5%	1,238	+22.7%	+49.8%



出典:「観光庁宿泊旅行統計調査」をもとに当機構作成
注1:2024年1月~2024年9月は速報値。

北海道への訪日外国人延べ宿泊者数 市場別推移



出典:「観光庁宿泊旅行統計調査」をもとに当機構作成(延べ宿泊者数が多い国・地域を抽出)
注1: 2024年1月~2024年6月は速報値。

来道者輸送実績

2024年8-10月

- 全体の来道者数は、8月は147.8万人(前年同月比+1.6%、2019年同月比▲3.5%)、9月は132.4万人(前年同月比+4.3%、2019年同月比▲1.4%)、10月は128.8万人(前年同月比+8.4%、2019年同月比+9.5%)であった。
- 8-10月は全ての輸送機関で前年同月比を上回り、好調を維持している。2019年対比では、8月、9月は全体で下回ったものの、10月は2024年2月以来、コロナ禍前実績を上回った。
- 2024年4~10月の輸送実績全体は863万人となり、2019年同期実績(879万人)に迫る数値となっている。(単位:万人)

	2024.8			2024.9			2024.10		
	来道者数	前年同月比	2019同月比	来道者数	前年同月比	2019同月比	来道者数	前年同月比	2019同月比
全体	147.8	+1.6%	▲3.5%	132.4	+4.3%	▲1.4%	128.8	+8.4%	+9.5%
航空機	121.9	+0.5%	▲3.9%	115.2	+3.2%	▲0.7%	113.0	+7.7%	+9.0%
JR	11.5	+16.3%	+10.1%	8.1	+12.1%	▲13.1%	7.9	+15.3%	+10.6%
フェリー	14.4	+0.6%	▲9.2%	9.1	+11.2%	+1.8%	7.9	+12.5%	+14.9%



出典:「HTO来道者輸送実績調査」をもとに作成

会員向け

輸送機関別来道者(発地別、着地別)及びインバウンド位置情報データ(人流データ)はコチラ ▶

北海道の観光統計データ <http://statistics.visit-hokkaido.jp/>



世界最大級の旅の祭典 『ツーリズムEXPOジャパン2024』に出展 北海道ブースは準グランプリを受賞!!



世界最大級の旅の祭典『ツーリズムEXPOジャパン2024』は、9月26日から4日間東京ビッグサイトにて開催され、会場には約18万人が訪れる、大変盛況なイベントとなりました。

道内からは48の地域・団体が北海道ブースに集まり、BtoB商談会、BtoC向け観光プロモーションを実施しました。今回のブースは、北海道らしさを感じられる、リサイクル可能な鮭箱を装飾し、イメージを伝えやすい大型ビジョンを複数基設置することで、圧倒的なスケールによる動画コンテンツで来場者に魅力をお伝えしました。各出展ブースの中から来場者投票により、展示会を盛り上げたブースを選出し表彰する、「旅のプロが選ぶ ブースグランプリ」にて準グランプリを受賞することが出来ました。

ステージ横では、北海道のワイン・日本酒などの試飲を提供、参加型ワークショップの開催、VRによる北海道体験、ステージイベントでは、北海道とのLIVE中継も実施。28日には鈴木知事にもメインステージ、北海道ブースステージにもご登壇頂き、大盛況のうちに終了しました。

北海道ブースの周辺には単独出展した地域ブースやウポポイブースも展示され、本イベントをさらに盛り上げていただきました。

改めて北海道の関心の高さが感じられる4日間となりました。今後も大型イベント等への参加を通じ、北海道の魅力をPRして参ります。

イベント名	ツーリズムEXPOジャパン2024
全体テーマ	「旅、それは新たな価値との遭遇」
開催期間	2024年9月26日(木)～29日(日)
会場	東京ビッグサイト東展示棟東1～6ホール
来場者数	182,934人(4日間合計) ※2023年148,062名 過去最高は2018年 207,352人

ツーリズムEXPOジャパン2024 主なPR実績

LINE登録

LINE登録者にガラポン抽選会実施

新規LINE登録数 **7,010名** WEBアンケート **998名** (9/30現在)

X登録促進

フォロワーにはノベルティ配布にて呼びかけを実施。X登録ステッカーも2,000枚用意したが全て配布。
約3,398名フォロワー

キュンちゃんグッズ販売

クリアファイル、マスコットキーチェーン、ボールペン、ぬいぐるみ等 完売

さっぽろ圏e旅ギフト

チラシ1,000枚配布、ポスター掲載してPRを実施。

北海道ブース周遊スタンプラリーの実施

単独出展するブース8か所と連携して、周遊スタンプラリーを企画実施。 富良野・美瑛、美瑛市、三笠観光協会、鶴居サウナ & キャビンズ、ウポポイ/北海道登別洞爺広域観光圏協議会、紋別観光委員会、札幌商工会議所(すすきのナイトツアー)、星野リゾートトマムとの連携を図り、お客様への北海道内ブース周遊促進を図った。

北海道産ワインの試飲

整理券の配布数 **2,830枚**



鈴木知事とキュンちゃん北海道ブース内ステージにて



バーチャル北海道VR体験の様子(体験数381名)



HOKKAIDO LOVE!



北海道観光PRキャラクター

キュンちゃんグッズ

好評発売中!!

HTOでは、北海道観光PRキャラクター『キュンちゃん』グッズを販売しております。

キュンちゃん公式ネットショップでは、ぬいぐるみやクリアファイルなど様々なアイテムを取り扱っております。

観光プロモーション等でノベルティ、景品としてご利用の場合は、**お得な会員価格**でご購入いただけます。



キュンちゃん公式ネットショップ

新商品も続々登場!



<https://kyunchanshop.official.ec/>

キュンちゃんグッズを販売していただける店舗も募集しております。

詳しくはマーケティング・DX部までお問い合わせ下さい。



お問い合わせ先

☎ 011-231-0941 (担当:津田・若月) ✉ kyunchan_ec@visithkd.or.jp

※各部で展開している事業の一例をご報告いたします。

プロモーション部(国内)

「北海道ぐるっとロケ地フェスin赤れんが前」イベント開催

秋から冬にかけての道内周遊を促進するため、11月10日(日)にイベント「北海道ぐるっとロケ地フェス in 赤れんが前」を開催しました。鈴木知事による開催宣言の後には、TEAM NACSの森崎博之さんのトークステージなども行われ、会場は大変盛り上がりしました。イベントでは、食とロケ地をテーマとしたステージや出展ブースでの情報発信をした他、11月10日(日)から2月28日(金)まで実施の道内のロケ地を巡るデジタルスタンプラリー「HOKKAIDO LOVE! ロケーションスタンプラリー」の登録促進PRを行いました。期間中、多くの観光客の皆様がロケ地を巡っていただけるよう、情報発信をして参ります。(担当:柳原)



プロモーション部(海外)

World Travel Market 2024(ロンドン)出展/ドイツ・フランクフルトでの北海道観光セミナー開催

欧州観光レップ事業の一環として11月5日(火)～7日(木)に英国・ロンドンで開催された国際旅行博(BtoB)に出展し、北海道の観光PRや多くの関係者との面談を行いました。また、在フランクフルト日本国総領事官邸にて現地旅行関係者対象の北海道観光セミナーを実施いたしました。今回の面談をきっかけに具体的な商談につながっているケースもあり、今後もコミュニケーションを密にし、北海道への誘客に活かします。(担当:杉山)



マーケティング・DX部

「さっぽろ圏e旅ギフト」加盟店に対して10%還元キャンペーンを始めました

10月から「さっぽろ圏e旅ギフト」の知名度向上と加盟店増強を図るためキャンペーンを行っています。電子チケットを返礼品として受け取り、加盟店にて電子チケットを利用した方の金額の10%分を加盟店に対し事務局が還元を行います。(ただし、加盟店が還元を受けるには条件がありますので詳細は担当までお問い合わせください。)また、本件とは別に、10月から利用者の利便性向上を目的として電子チケットの使用期間を180日間から365日(1年間)へ延長しました。更に(一社)札幌ハイヤー協会様の協力により、札幌市内のタクシー事業者様(約4,400台)にPRステッカーの貼付を依頼。既にステッカー(QRコード付)からホームページへのアクセスもあり、効果に繋がっています。引き続き「さっぽろ圏e旅ギフト」の推進により、「さっぽろ連携中枢都市圏」の地域経済活性化を図って参ります。(担当:若月)



マーケティング・DX部

欧米豪FIT旅行者誘客・受入事業(分析事業)

北海道の自然・文化資源を活かした高付加価値なATツアーを提供し、ウェルネス観点から温泉等を評価し、健康増進を図る5つのモデルコースの内、北宗谷コースの実証を10月3日(木)～5日(土)にかけて行いました。利尻島1周60kmを約6時間かけて走るサイクリングをメインに行い、参加者は再訪を希望するなど満足度は高いものとなり、元々優れた自然景観に加え、質の高いガイド、専門家のサポートや地元のアクティビティ体験に対する環境整備、そして温泉による癒し効果は欧米豪FIT旅行者に対する受入環境として十分なものでした。今後は5つのモデルコースをサイトや広告等で紹介し、効果検証を図ります。(担当:津田)



観光戦略部

ATWS2024パナマ開催

10月7日(月)～10日(木)に中米パナマにて開催されました。世界のAT業界のリーダー達約600名が集結し、北海道からはATガイドやツアーオペレーターなど総勢16名が参加しました。昨年の開催によって北海道・日本の認知度は格段に上がっていることを様々な場面で実感、具体的な商談の話も上がるなど今後の成果に期待が持てます。今後もAT適地としての北海道・日本を積極的にPRし、関係者とともに誘客に繋げる活動を積極的に推進して参ります。(担当:堀田)



観光戦略部

ATハンズオン支援事業 アドベンチャートラベルセミナーを全道6地域で開催

HTOでは、増加するAT旅行者のニーズを的確に取り込むことができるよう、ATWS2023の開催から得た知見やノウハウを全道各地域に波及・定着させるため「アドベンチャートラベルセミナー」を全道6地域(9/4旭川、9/10白老、9/13函館、11/7弟子屈、11/13帯広、11/19新ひだか)で開催しました。ATWS2023での日本の評価を見ながら、今後北海道が受入を行うAT旅行者や地域の取組事例の紹介を行いました。(担当:佐藤)



観光戦略部

観光人材発掘事業

生産年齢人口の減少が進む中、人手不足が著しい宿泊業に対し、新卒者や離職者の受入、外国人材の活用など観光人材の確保・育成に向けた支援を目的に、就職活動を始めようとしている学生を対象とした、宿泊事業者の出前講座や施設見学を実施しました。本事業は今後行うインターンシップ体験を通して、宿泊業への就職に興味を持ってもらい将来の職業選択に繋げる事業で、10月7日(月)より出前講座を開始し、11月2日(土)からは職場見学も実施しました。学生達は皆真剣な面持ちで講師のお話を聞き、施設も見学することで更に興味を深め、ホテルスタッフへ色々な質問をしていました。(担当:高橋)



HTO 事業活動予定

2025年1月～

プロモーション部(海外)

「Travel Adventure Show Los Angeles(通称:LATAS)に出展します!

米国西海岸最大規模の旅行博に、本年度も出展します。北海道の魅力あふれるコンテンツの自然・アイヌ文化・食・温泉等を通じ、誘客に向けたプロモーションを展開して参ります!(担当:澤)

○開催日:2025年2月22日(土)・23日(日)

○会場:Los Angeles Convention Center

○来場者数:17,312名(2024年実績)※有料入場



プロモーション部(海外)

FITUR2025(マドリッド)出展/フランス・パリでの北海道観光セミナーの開催

2025年1月22日(水)～26日(日)にスペイン・マドリッドで開催される国際旅行博(BtoB)に出展します。また、併せてフランス・パリにて北海道観光セミナーを開催し、日本及び、北海道への送客に熱心な現地旅行会社に対して北海道の観光PRを実施いたします。(担当:杉山)



観光戦略部

北海道ATの魅力在海外に伝える 冬季FAMツアー及び商談会実施事業

ATWS2023参加者アンケートでは、「現地視察」や「旅行会社の紹介」を求める意見が多かったことから、海外旅行会社への情報提供の機会が必要とされています。本事業では、北海道のATの魅力在海外旅行会社に向けて効果的に情報提供するため、FAMツアーを実施するとともに、招請者と道内の旅行会社の間で商談会を開催することで、商品造成に繋げていきます。(担当:角)

○開催時期:2025年1月中旬予定



「北海道観光に関する提案・要望」 「北海道観光に係る経済対策に関する要望」を実施しました

令和6年11月21日、北海道知事及び北海道議会議長、食と観光調査特別委員会委員長への要望を実施いたしました。令和7年度の観光施策への提案・要望に加え、今回初めて、日本旅館協会北海道支部連合会、北海道ホテル旅館生活衛生同業組合、日本ホテル協会北海道支部の3団体との連名で、緊急経済対策要望を行いました。

HTOは、令和6年6月に策定したグランドデザインにおいて、2030年度のKGIとして「総観光消費額3兆円」を掲げるとともに、地域に寄り添い、観光の力で地域の課題を解決することを使命としたところです。北海道を世界でもトップクラスの観光地としていくため、北海道や地域、関係団体、観光関連事業者の皆様と連携しながら取組を着実に進め、持続可能な地域づくりへ貢献して参ります。

【提案・要望項目】

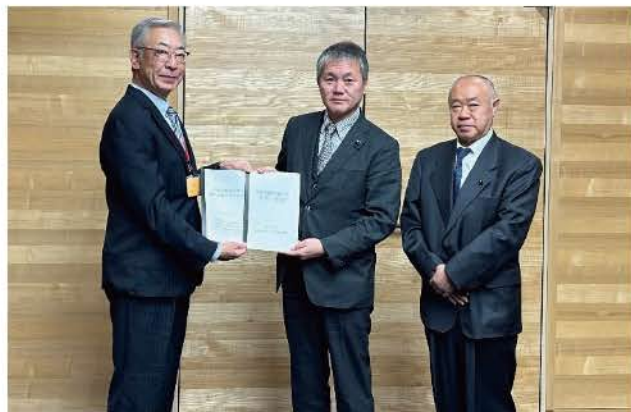
1. 観光人材の確保
2. 旅行需要の平準化(時期の平準化・地域偏在の解消)
3. マーケティングの強化と地域への還元
4. 高付加価値化に向けたプロモーションの強化
5. 宿泊税の導入
6. 航空機燃料の安定供給など空港での受入体制改善



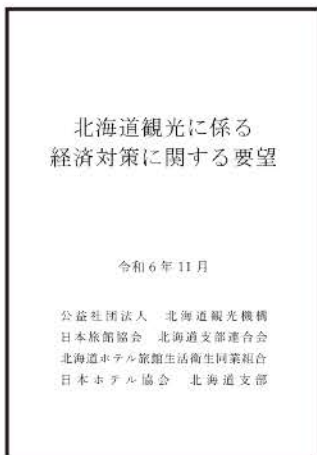
北海道知事へ手交

【経済対策に関する要望】

地域活性化と地域経済の発展に貢献する北海道観光の推進に向け、国の緊急経済対策予算を活用した観光関連事業者への支援の検討を要望しました。



北海道議会議長へ手交



食と観光調査特別委員会委員長へ手交

インターンシップの受け入れを行いました

(札幌国際大学・北海道大学)

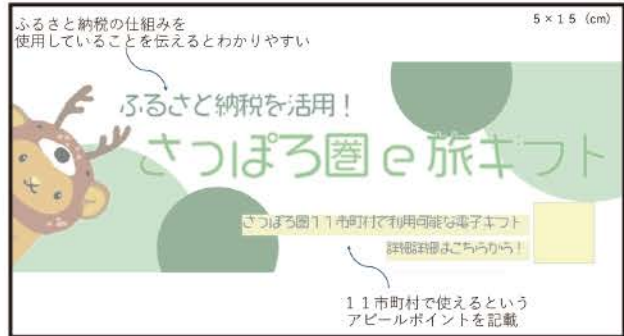
HTOは、観光の力で地域の課題を解決することを目指しており、北海道観光への理解促進や人材育成に貢献するため、今年度初めて、インターンシップの受入を行いました。

◆札幌国際大学

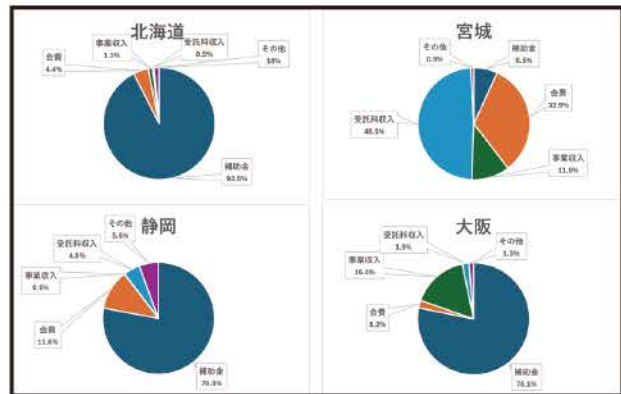


成果発表会の様子

令和6年8月、札幌国際大学から木寺愛紗佳さん、佐藤珠莉さんの2名を受入いたしました。HTOの概要についてオリエンテーションを行った後、木寺さんを事業企画本部に、佐藤さんを総務部に配置し、札幌競馬場でのイベント参加や、札幌駅の観光案内所の見学などもまじえ、オフィス内外で様々な業務を体験いただきました。最終日には、就業体験の中で学んだこと、考えたことなどの成果をまとめ、発表いただきました。一週間という短い期間でしたが、お二人とも熱心に参加していただきました。



大学生ならではの視点で、さつぽろ圏e旅ギフトやキュンちゃんのPR戦略を提案いただきました。



全都道府県DMOの財務状況について調査いただき、グラフにまとめていただきました。

◆北海道大学

令和6年6月から10月まで、北海道大学とHTOは、共同研究型インターンシップ(R6前期)を実施いたしました。北海道大学の博士課程から楊 捷さん、于 書彬さん、修士課程から甲斐 和樹さん、鷹野 颯大さんの4名にご参加いただきました。MaaS※チーム(于さん、鷹野さん)、SNSチーム(楊さん、甲斐さん)に分かれ、4名それぞれ独自の手法で課題を整理・検証し、解決策を検討いただきました。10月24日にはHTOで、11月19日には、北海道大学での合同発表会で成果を発表いただきました。工学部など観光とは畑違いの学部からもご参加いただき、北海道観光の課題と振興について考えていただく貴重な機会となりました。なお、11月からは、後期として、新たに4名の受入を開始しています。

※Mobility as a Serviceの略で、複数の交通手段を統合して、検索・予約・決済などをワンストップで行うサービス



インバウンドの視点から地図マッピングアプリとの連携を通じた、MaaSによる交通利便性向上サービスについて提案いただきました。



二次交通を実証の上、課題を整理し、解決策を提案いただきました。

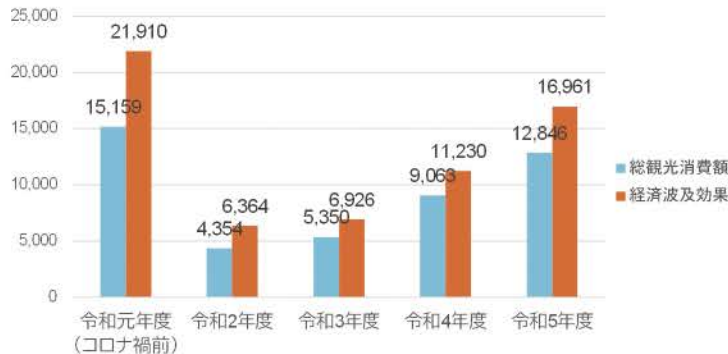


アカウント開設やアンケート実施など実証の上、SNSに関する提案をいただきました。

令和5年度道内観光産業による経済効果について

HTOでは、道内の観光地を訪れる観光客の満足度や道内観光産業の経済効果を把握するため、北海道来訪者満足度・観光産業経済効果調査を実施しています。今回、令和5年度の調査結果【確定版】がまとまりましたのでご報告いたします。

1.概要



- 総観光消費額：1兆2,846億円
前年度比：+3,783億円、141.7%
令和元年度比：△2,313億円、84.7%
 - 経済波及効果(生産誘発額)：1兆6,961億円
前年度比：+5,731億円、151.0%
令和元年度比：△4,949億円、77.4%
- ※令和2～4年度は国内観光客の観光消費額に基づく(外国人計測は無し)

2.新型コロナウイルス感染症による影響について

新型コロナウイルス感染症が令和5年5月に5類感染症に移行し、海外からの渡航制限など各種の規制、自粛が緩和された。本年度調査では令和2年度以降中断していた外国人観光客への調査を再開し、本格的な“ポストコロナ”の観光動向を探った。尚、北海道にとって最大需要国であった中国は、令和5年8月に日本への団体旅行を解禁したが、本格的な訪日旅行回復とはなっていないことを注記する。

道外客需要は総観光消費額の35.4%(4,541億円)を占めている。外国人需要は総観光消費額の25.0%(3,210億円)を占め、北海道観光への寄与は大きい。但し、前述のように外国人入込客数は回復途上にある。総観光消費額や経済波及効果は増加し、いずれもコロナ禍前の令和元年度に水準に向け(84.7%、77.4%)回復傾向がみられる。

3.まとめ(令和4年度との比較)

- 道が令和6年9月に公表した令和5年度における本道の観光入込客数4,777万人と前年度を比較すると13.0%伸びている。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことや、令和5年に開業した北海道ボールパークFビレッジの効果などもあり、コロナ禍前である令和元年度の観光入込客数に近づいている。
- 外国人観光客への調査はコロナ禍に伴い令和2年度以降実施していなかったが、本年度から再開した。外国人入込客数はコロナ禍前(令和元年)の75%まで近づき、本年度道内観光消費の1/4(3,210億円)を占めるなど、改めて経済効果へのインパクトは大きいことが確認された。今後のさらなる回復が期待される。

<調査の概要(令和5年度北海道来訪者満足度・観光産業経済効果調査)>

- 目的：①国内観光客(道内客・道外客)、外国人観光客の観光・旅行の概要や北海道観光への期待度、満足度を把握し、今後の観光振興策の指針を得る。②旅行予算を把握し、北海道観光がもたらす地域経済への波及効果を推計する
- 方法：全調査地点に調査員を配置し、アンケート回答の依頼と回収を行った。回答は主に「自記入法」(その場で回答者自ら記入し、その場で調査員が回収する)としたが、回答者の希望により「面接聴取法」も併用する。
- 調査地域：全道80市町村で、103か所の調査地点を設定。このうち、「交通結節点」は11か所(空港、港)
- サンプル数：有効回答数4,529件を取得(内訳：道内客1,638、道外客1,713、外国人1,178)
- 項目：プロフィール(居住地、年代、職業、年収等)、旅行形態(日程、人数等)、旅行内容(消費額、観光ルート等)、期待度・満足度等
- 時期：令和5年7月8日～令和6年2月15日

<上記の内容で調査を実施した結果、下記の消費額を算出>

消費額：一人当たり単価(内訳：交通費、宿泊費、飲食費、買物代、娯楽等サービス費、その他)

年度	道内客		道外客		外国人
	日帰り客	宿泊客	日帰り客	宿泊客	
令和5年度	6,497	32,398	18,385	91,518	137,180
令和4年度	7,815	30,470	16,090	81,182	-
増減	▲1,318	1,928	2,295	10,336	-
参考・令和元年度	8,120	32,594	70,773*		138,778

注)本消費額単価はアンケートで回答を得た単純集計による消費単価ではなく、パッケージ料金に含まれる飲食、宿泊、交通費等の道内留保分も含めた「経済波及効果(推計)」に用いる最終投入単価の数値である。
※令和元年度の道外客については日帰り・宿泊の区別をしていない。

令和5年度道内観光産業による経済効果について

①総観光消費額

	年度	道内客				道外客			外国人	合計
		日帰り客	宿泊客	その他	合計	日帰り客	宿泊客	合計		
a 年間観光客数 単位：万人	R5	3,215	823	214	4,252	11	494	505	234	4,991
	R4	2,913	843	90	3,846	12	392	404	69	4,319
	増減	302	▲20	124	406	▲1	102	101	165	672
b 道内観光消費額単価 (推計用調整値) (1人) 単位：円	R5	6,497	32,398	15,853	—	18,385	91,518	—	137,180	—
	R4	7,815	30,470	15,853	—	16,090	81,182	—	—	—
	増減	▲1,318	1,928	0	—	2,295	10,336	—	—	—
c 道内観光総消費額 (a×b) 単位：億円	R5	2,089	2,666	340	5,095	20	4,521	4,541	3,210	12,846
	R4	2,277	2,569	143	4,988	19	3,182	3,202	874	9,063
	増減	▲188	98	197	107	1	1,339	1,340	2,336	3,783
構成比 (%)	R5	16.3	20.8	2.6	39.7	0.2	35.2	35.4	25.0	100
	R4	25.1	28.3	1.6	55.0	0.2	35.1	35.3	9.6	100

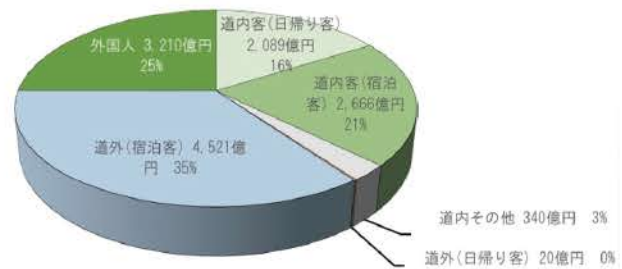
※四捨五入の関係で各項目と合計額が一致しない場合がある

注) 年間観光客数の算出方法について

- ・観光入込客数は「北海道観光入込客数調査報告書(令和5年度)(北海道経済部観光局)」に基づき、道内客は日帰り客(3,215万人)と宿泊客(823万人)を合わせた4,038万人に、「その他＝道民の道外・海外への旅行」(214.4万人)を加えた総約4,252万人とした。
- ・道外客は日帰り客(11万人)と宿泊客(494万人)を合わせ約505万人、外国人客は234万人とした。
- ・総計は約4,991万人である。

※1) 道内客の「その他」は道外や海外への旅行に関わる旅行消費であるが、今回の事業では調査対象となっていない。このため、今回調査では「2019年調査値」で設定した。

※2) 道内観光消費額単価は北海道来訪者満足度調査より引用



②観光による経済波及効果

○総観光消費額1兆2,846億円による経済波及効果の推計結果
経済波及効果は1兆6,961億円となったが、外国人調査を実施していない前回より約5,700億円増大している。コロナ禍前の令和元年度と比較すると、あと5,000億円程度の差がある。

	経済波及効果(生産誘発額) 単位：億円	新規雇用者誘発数 単位：万人
令和5年度	16,961	15.1
令和4年度	11,230	10.5
増減	5,731	4.6
増減率(%)	51.0%	43.8%
参考・令和元年度	21,910	21

注) 観光消費による経済波及効果(生産誘発額)は総額1兆6,961億円と推計され、その内訳は(その他の道外観光行動含む)道内客6,639億円、道外客6,027億円、外国人客4,295億円構成される。経済波及効果の構成は、直接効果9,592億円(道内客3,774億円、道外客3,410億円、外国人客2,407億円)と、第一次間接効果4,526億円(道内客1,724億円、道外客1,609億円、外国人客1,194億円)、第二次間接効果2,843億円(道内客1,141億円、道外客1,008億円、外国人客694億円)の合計額からなる。なお、四捨五入の関係で各項目と合計額が一致しない場合がある。

日本の観光に、 サステナビリティの プロフェッショナルを。



一般社団法人
サステナビリティ・コーディネーター協会
Japan Sustainability Coordinator Association (JaSCA)
〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町有島 18-34

 <https://japansca.org>
 090-8897-8643
 info@japansca.org



2023-24 年度の主な実績

- 群馬県 サステナブル国際表彰・認証取得支援業務
- 那須塩原市 持続可能な観光の国際認証取得支援業務
- 小豆島観光協会 持続可能な観光の国際認証取得支援業務
- 高山市 グリーン・デスティネーションズ表彰取得支援業務

以下、株式会社 LOOPORT 受注

- 北海道観光機構 サステナブルツーリズム推進事業
- 北海道運輸局 北海道における持続可能な観光地域づくりに向けた調査事業
- 札幌市 持続可能な観光推進に係る調査・検討業務

グリーン・デスティネーションズ・ジャパン Green Destinations Representative Japan (GD Japan)



JaSCA は 国際認証機関 Green Destinations の日本代表事務所として、
持続可能な観光の認証・表彰等に関する各種サポートを行なっています。

 <https://greendestinationsjp.org/>

